

資材部会・中国自動車関連企業を視察

期間：平成16年7月25日～8月1日

視察団団長 泉 龍彦（クラリオン(株)取締役社長）
副団長 福西 紀雄（天龍工業(株)取締役社長）

資材部会では7月25日より8月1日まで12名で「中国自動車関連企業視察」を実施。瀋陽日野、上海GM、広州五十鈴と自動車関連企業を訪問。視察を通して中国自動車事情と技術動向を調査。約一週間の視察を無事終了したので、その結果を報告します。



瀋陽日野にて記念撮影

1. はじめに

今回7月25日より8月1日迄の8日間、資材部会として中国自動車関連企業視察を敢行。私達総勢12名の団員は中国の3企業を訪問させていただきました。

まず、私達は北京空港に到着。空港自体も綺麗になっていたので、何年かぶりの中国訪問の人は「中国は変わったね!」と頻りにつぶやいていました。2008年北京オリンピック開催に向けて都市が大きく変貌しているのを感じました。

また、バスに乗り継いで感じたのは北京には非常に自動車が多いということです。確かに数字的にも中国の自動車生産の伸び率は上昇していますが、3車線の高速度道路が常に渋滞に巻き込まれてしまいます。今後こういった状況を改善しなければ、これからますます自動車が増加する事によって交通は混乱してしまうでしょう。これは、北京に限らず上海でも一緒でした。相当に古い自動車も相変わらずに走っていて、自動車ナンバーの無い車が道路を走っているのには驚きました。また、バスの窓の外を見てみると道端に立ち往生している事故車が何度となく見受けられました。街が大変に綺麗に感じた事を含め、いろいろなお話を考えさせられた北京でした。

それにして今年のも



北京市内

中国は大変に暑かったです。当初はもう少し大陸の気候で乾燥しているものとおもわれましたが。(この時は日本も最高気温更新中だったので…)。

2. 瀋陽日野訪問

瀋陽は、北朝鮮と国境を隔てる地です。街並みも北京とは違ってきます。私達が「中国」と聞いてまず思い浮かべる発展途上の風景かもしれませんが。空港から渾河を渡って市内に入りました。工場は経済技術開発区にあり、そこにはさまざまな工場が並んでいました。また見慣れた名前のロゴも目に入ってきました。

瀋陽瀋陽日野汽車製造有限公司では、第一副董事長常務副總經理の岩澤様、總經理助理の芝崎様両氏より歓迎を持って迎えていただき、私達の強引ともいえる中国視察の計画だったので、それでも快く迎えて下さったことに感謝の念で一杯です。

瀋陽瀋陽日野汽車製造有限公司は中国の瀋陽瀋陽日野汽車製造有限公司に2000年に日野自動車株式会社と豊通商株式会社が資本参加し現在の会社が成立となりました。

そして、日野自動車の進んだ製造技術と生産・経営管理ノウハウを取り入れ、中国国内トップのバス車両開発技術と製造技術、品質保証体系、優れたサービスネットワークを確立。

最新の製造設備を導入し、電着塗装ライン、シャシ組立ライン、テストラインなど日本国内と同様な立派なラインがあり、大中小バス3,500台、バス専用シャシ5,000台の生産能力を有しています。

また、工場敷地面積は開発区に330、

News Flash

000㎡。従業員は720名。エンジンサスペンションなど機能部品は日本から持ってきていますが、国産化率は現在53%。質疑応答では、参加者各位がそれぞれの立場で熱心に質問していましたが、中国進出企業のどこの企業でもあり得ることですが、販売価格の問題、販売契約の問題、提携先等様々なことがあるとのことでした。また、日本ではJIS、JASO規格等を使用していますが、中国ではまだ、そういった規格はないとの事。しかし環境保護であるユーロⅢは、北京、上海の多くの企業が取り組んでいる等懇切にお話いただきました。

3. 上海GM訪問

今中国で躍進している上海ゼネラルモーターズの見学です。

もともと、中国ではフォルクスワーゲンが早くから進出をしていましたが、GM社はそれを追いかける形となっていました。それがここ数年で、上海GMの販売がさぶる良いとのこと。浦東地区の550,000㎡の土地に260,000㎡の組立工場を建設、「ビューイック」を製造している工場の視察です。

上海GMの工場の正門へ着くと、そのあまりの厳張りに皆に緊張感が漂いました。



上海市内の風景

場内のショールームを見学。この工場生産されたクルマが展示されていました。どれも、まだ安いとは感じられないのに、よく売れているとのことでした。

それから、工場の中の視察に入りました。工場は3交代制で24時間稼働。約3,000名の従業員がこの工場に働いており、見学したプレス、車体組立ラインはGMの工場らしくすべてオートメーションになっており、その機械装置はほとんど日本製であるとの説明がありました。ここでも日本の自動車製造技術の優秀さが垣間見られました。



上海GMショールームにて

4. 広州五十鈴視察

今回の中国視察の最後に広州五十鈴客車有限公司を訪問しました。

広州では、私達が訪問した数日後に広州新空港が開港となりました。その空港にシヤトルバスとして「GALA」が採用されたとのことです。

広州五十鈴では、副総経理の後藤様、品質管理部長の大谷様に迎えていただきました。

はじめに、会社概要を伺いました。

まず、資本はいすゞが25%、五十鈴中国が24%、広州汽車が51%。100,000㎡の敷地。従業員は450名。従業員の平

均年齢は31歳。製作バスは「GALA」系等。

その後で、中国販売のPRビデオを拝見。そこには非常に高級感あふれるバスが登場していました。

また、2001年にはバスモーターショーで優秀賞を受賞されたとの事。このように見ると、いかに日本のバスが優良であるかがよくわかります。この後工場内の視察の許可をいただき、説明をしていただきながら

良い車即販売が良いいう、図式はまだ今の中国では見られないのがとても残念です。



広州五十鈴での記念写真

5. 最後に

今回の中国視察も多くの関係各位の方々にご尽力をいただきました。あらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。また、視察を快く受け入れて下さり、ご協力いただきました各社にもあらためて御礼申し上げます。

自動車先進各国の経験からみると一人当たりのGDPが3,000ドルを超えるあたりから、自家用車に対する需要が増大し、自動車市場が急激に拡大してくると言われ

ていますが、既に北京、上海、広州等の沿海大都市の一人当たりのGDPは3,000ドル以上になっています。

また、中国の自動車市場の発展は地域的に不均衡で主として東部沿海都市部に集中しています。これからどれだけ自動車市場は伸びていくのでしょうか。それにはインフラの整備、省エネルギーなど車発展に

関係する課題も多いと感じられました。上海はとても華やかな大都市でしたが、今は電力不足になっており、有名な綺麗な夜景が見られなかった事等少し残念なこともありました。充実した視察でありました。(了)



視察後の懇親会にて(上海)